

2016年度 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価報告

松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会

2016年度学校関係者評価委員会は、「2015年度学校自己評価」（各学年担任団、校務担当の各部ごとに実施）、「2015年度学校評価アンケート」（全校生徒・保護者対象。以下「アンケート」）、「学校見分」（施設見学・行事見学・授業参観を今年度実施）にもとづき、学校運営の改善を図るために実施した「学校関係者評価」を報告します。

本委員会は次の3点を柱として協議しました。

- (1) キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。
- (2) 学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。
- (3) 豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

(1) キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。

松蔭のキリスト教主義の教育とは聖公会を基礎に置き、「キリスト教の教えについて理解を深めることで人間をどう見るか、物事をどう見るか、社会をどう見るか」を築くものと言える。その中心は「聖書」、「聖歌」、「礼拝」を通して学ぶ中で培われるものである。聖公会という宗派は「見えなくなる」(disappear) ことを一つの目的としている。これは「相手を立てることで自らが見えなくなる」ことであり、生徒や卒業生を見ていてそのように感じられる点があることは評価に値する。教育とは「知識」ではなく、「人をどのように育てるか」ということであろう。「聖歌」が家庭で話題に上ることが多いのだが、礼拝での先生方の話が自宅で語られるようになればより良いと思われる。礼拝のお話では受け止め手である「生徒」が鍵を握っており、その時期は人それぞれである。授業見分の「赤ちゃん先生、ようこそ」に中高の卒業生が「講師」として来ていた。本人に確認すると「母校に来たかった」ということであった。これはキリスト教主義の考え方が中高の六年間、また、その後も自然な形で子ども達に「受け止められている」一例と考えられる。「触れさせ続ける」「与え続ける」ことの大切さを感じる。そのことがキリスト教主義を柱とする人間教育の実践につながり、人格形成に寄与することになる。今後もその姿勢を保ち続けてほしい。

(2) 学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。

学年が上がる中で人間関係のトラブルも顕著に減っている。中学生ではクラス内での大きなトラブルもあるが、高校生になると自分たちで解決できるようになる。このように生徒たちが自省できるように成長している点は望ましい。部活動でも一所懸命に励む中で力をつけてきている。勉強といった形や数字に出ないところでの成長が見られるように感じる。普段の学校生活の中で人との付き合い方を覚えたようだ。今後、大学や社会へ進むことになっても人間関係の形成について心配はしていないという意見もある。子ども達の中では「合わない子はいても、嫌いな子はいない」というような発言もある。皆がそれぞれを尊重しながら生活しているのはよい点である。そのような雰囲気があって「松蔭にはいじめはない」といった発言も出てくる。このことに勝る教育はないだろう。教員もよく目を

配っており、声かけを頻繁にすることが「いじめ」の予防に繋がる面もあるようだ。上からの「指導」というのではなく、日々の生活を通じて「人間関係」を構築していく姿勢を今後も保ってもらいたい。

(3) 豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか

現状の教育活動の中で、「学力定着」の点ではやや劣る感がある。さまざまな行事は盛り上がるが、授業面では課題が見受けられる。学習量の不足を夏休みなど長期休暇に補習で強化しているようだが、取り組みには学年によってばらつきがあり、その改善を図る必要があるだろう。

現在、補習期間中（夏休みに入ってから最初と最後の一週間）について勉強中心に取り組めるように学校側も動かれるようになったが、今後一層の推進を望みたい。一方で与えすぎる「長所」と「短所」も考えて距離を保ちながら子ども達を教育してもらいたい。

併設大である神戸松蔭女子学院大に進学する生徒も40～50人いるが、中高での姿勢もリセットされる。やる気があれば大学に入学後伸びているとの話もある。学力面での即効性のある妙案は無いが、中学では生活指導を中心に細かく取り組み、それが根づき、高校生になって勉強、クラブにしっかり頑張ることのできる生徒を育て、最終的に進路実現に繋がる方向に伸ばしてもらいたい。話題は変わるが、2020年度には大きな教育改革が予定されている。松蔭でもICT教育・情報教育の推進が期待される。そうすると先生方にもより工夫が必要になってくるが、是非その努力をお願いしたい。

以上、2016年度学校関係者評価委員会の報告とします。

(参考) 学校法人松蔭女子学院 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会規約(抜粋)第2条(目的)
この会は、学校の現状と課題を明らかにし、併せて教職員による自己評価について、学校関係者による評価を行い、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

第3条(活動)

この会は、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- 1、自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- 2、生徒・保護者による学校満足度調査結果により、学校の現状を把握する。
- 3、授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- 4、学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうか評価する。
- 5、その他必要な活動は、学校関係者評価委員の協議により行う。

第5条(組織)

この会は、次の構成員によって組織する。

- 1、学校関係者評価委員6～8名
保護者代表(P T A本部役員)、神戸松蔭女子学院大学代表、
卒業生(千と勢会)代表、その他学校関係者として校長が委嘱する者
- 2、校長、副校長、事務長 4名